

桜十字病院メディカルスクエア

SAKURA JYUJI HOSPITAL MEDICAL SQUARE

No. 12-032-2014作成

新築
病院/その他

発注者	株式会社桜十字	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	大成建設・三菱地所設計設計共同企業体	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	大成建設株式会社・株式会社九電工	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

ハイブリッドシニアレジデンス



「桜十字メディカルスクエア」と渡辺通りの街並み

地域の新たな核として

計画地は、福岡市の中心市街地「天神」の主要道路の「渡辺通り」と新たに設けられた「渡辺通春吉通り」の交差点に面し、南天神地区に置ける重要な再開発地区に位置している。

この商業地区とビジネス地区の狭間に、周辺地域活性化の核となる「医療・福祉・住宅」による新しい拠点を目指した。

「医療・福祉・住宅」を積層した街づくり

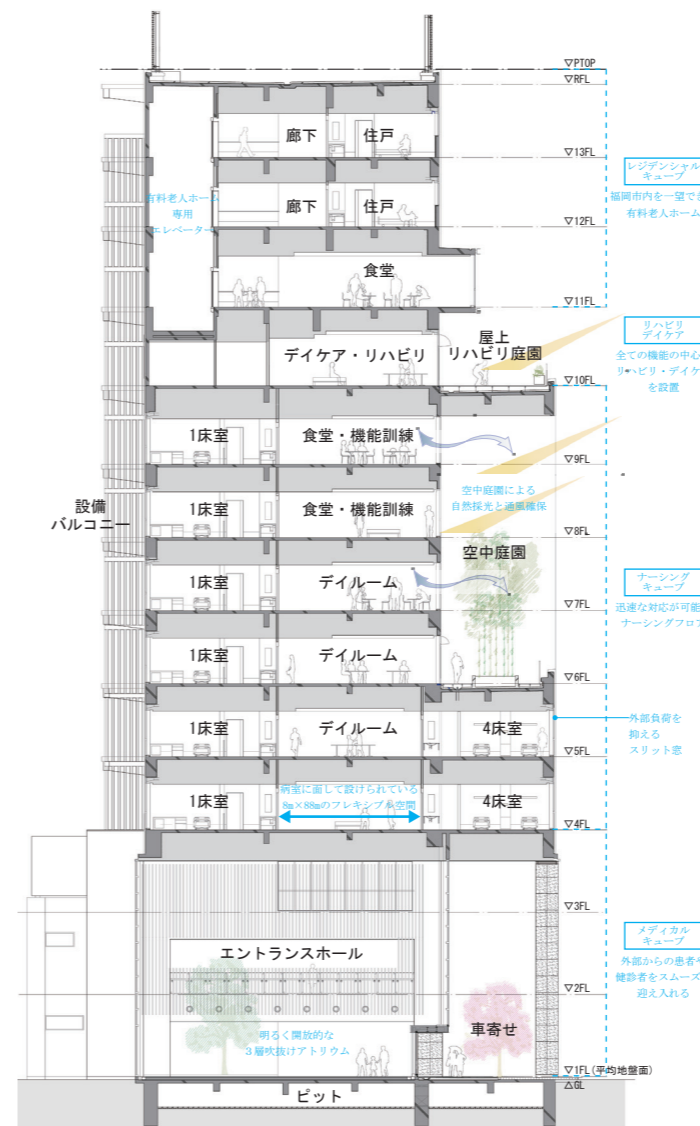
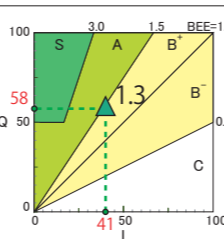
「桜十字メディカルスクエア」は、バリアフリーの容積緩和を利用し、病院199床、介護老人保健施設100床、有料老人ホーム102室を積層した都心における新しいスタイルを目指した。

低層階は、開放的な3層吹き抜け空間を中心に外来、健診、カフェ、薬局などを配置し地域とのつながりを創出した。

中間階は、病院と介護老人保健施設の病床を「8m×88mのオープンスペース」を持つ新しいスタイルの病棟とした。

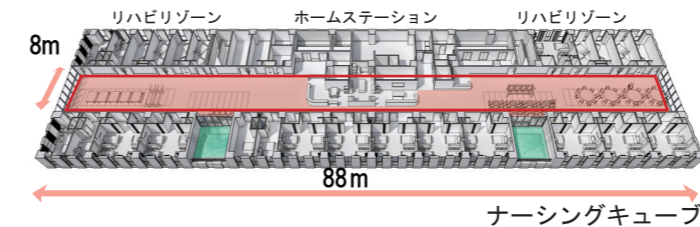
眺望の良い高層階は、コンパクトで機能的な有料老人ホームとし、それらをつなぐ機能として、屋外リハビリ庭園と一体となった「リハビリ・デイケア」を10階に配置し、各機能を専用エレベーターでつなぐ構成となっている。

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	福岡県福岡市	B+ランク
竣工年	2013年	BEE=1.3
敷地面積	3,101m ²	2007年度版自治体提出
延床面積	21,676m ²	
構造	RC造	
階数	地上13階、塔屋1階	



断面詳細図

8m×88mのオープンスペースを持つ新たな病棟
病棟の中央を貫く8m×88mのスペースは、入院患者の生活・治療スペースとして、病棟リハビリ・食事・イベントなど、必要に応じてフレキシブルな対応が可能なオープンスペースとして計画した。また、オープンスペースに設けられたボイドからは、緑や街並みを眺める事ができ、療養生活に潤いを与えている。



設計担当者
統括：松村正人/建築：河合義之、田口重裕、渡邊剛良、福手拓人/構造：中川路勇、金子文彦、井之上太/設備：堀雄二、箭内伸司、田村健、永田文男、畑京二、徳永栄二、梅木一秀

- 主要な採用技術 (CASBEE準拠)
- Q2 .3. 対応性・更新性 (空間のゆとり、メカニカルバルコニー)
 - Q3 .1. 生物環境の保全と創出 (外構緑化、建築緑化)
 - Q3 .2. まちなみ・景観への配慮 (街並みとの調和)
 - LR1.3. 設備システムの高効率化 (エコキュート、オール電化)
 - LR2.1. 水資源保護 (節水型機器)
 - LR3.2. 地域環境への配慮 (建築緑化、日陰の形成)

ストライプの外壁による環境制御
スリット窓と白壁によるストライプの外観は、オフィス街の街並みと調和しながら医療施設であることを象徴するデザインとした。緑化したボイド空間やオーバーハング・スリット等の変化により、単調になりがちな壁面にアクセントを設けることで存在感をアピールするデザインとした。スリット窓は、ベッドに寝たままの眺望を確保しながら外部負荷を抑える効果があり、快適性と環境性の両立を図った。



南東側外観

「空中庭園」で繋がる建築

外壁面には、大きなボイドを内部機能に合わせて設け、そこへ緑を配置することで室内外に大きな効果を生み出している。外部空間では、オフィス街のオアシスとして行き交う人々に癒しを与え、内部空間においては、地上に住まうような光と風を感じる落ち着いた空間を患者、家族、スタッフに提供している。



病棟廊下からボイド

ボイドによる空中庭園